

ハーモニー

Harmony

第76号 2018年6月8日発行
日本養護教諭教育学会

Japanese Association of Yogo Teacher Education

日本養護教諭教育学会

事務局：〒448-8542

刈谷市井ヶ谷町広沢1

愛知教育大学養護教育講座
後藤研究室

TEL&FAX 0566-26-2491

振替口座：00880-8-86414

<http://www.yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp>

目次

新理事長挨拶	1
2018年度学会事業について	2
第Ⅷ期理事会新理事長挨拶	2
第26回学術集会開催へのお誘い	4
トピックス	4
災害について考える⑦	5
「私の実践と研究」リレー・レポート⑳	5

2019年度「研究助成金研究」の申請募集	
「投稿奨励研究」のご案内	6
学会誌第22巻第2号の投稿募集・編集委員の紹介	6
2017年度理事会報告（要旨）	7
一般発表の「演題区分」についての意見募集	8
事務局より	8
編集後記	8

新理事長挨拶

一次世代を見据えた礎づくりをー

理事長 後藤ひとみ（愛知教育大学）

第Ⅶ期に続いて第Ⅷ期（2018年度～2020年度）の理事長に選出されました。2006年度から2011年度までの二期も合わせますと、四期目の就任となります。1992年11月の学会設立時に大きな期待をもって入会してから26年が経ちました。2000年度からは理事として研究活動、学会誌編集、学会活動、事務局運営などを担当してきました。そして、本学会の英語表記の決議（2001年度総会）、日本語と英語による養護教諭の説明文の決定（2003年度総会）、学会誌のA4判化（2006年3月）、日本学術会議協力学術研究団体に指定（2006年9月）、「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集〈第一版〉」発行（2007年3月）、プレコングレスの開催（2007年学術集会）、養護教諭関係団体連絡会の結成（2007年11月）、学会誌が学術刊行物に指定（2008年6月）、理事選出の選挙の実施（2008年度）、ハーモニーのA4判化（2010年6月）、投稿奨励研究の選定（2010年学術集会）、学会誌の年2回発刊（2011年度）、「学術集会における一般発表の演題区分」の提示（2012年学術集会）、「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集〈第二版〉」発行（2012年10月）などに関わってきました。

昨今は、教育再生実行会議の提言を受けて中央教育

審議会等での検討が加速しており、本学会が目的としている「養護教諭教育（養護教諭の資質や力量の形成及び向上に寄与する活動）に関する研究とその発展」にかかわる動きを確実に捉える必要があります。これからの、養護教諭を冠した全国唯一の学術団体として、「養護教諭教育」を構成している“養護実践”と“養成教育”と“現職教育”という3本柱のもと、タイムリーで確実な情報提供、実践と理論の往還による資質向上への寄与、関係する団体との交流などを積極的に行っていきたいと思います。また、今期の学会運営では、温故知新をスローガンとして、「昔のことをよく学び、そこから新しい知識や道理を得る」、「過去の事柄を研究して、現在の事態に対処する」を肝に銘じて、次世代を見据えた新しい学会づくりに努力してまいります。

具体的には、第一に第Ⅶ期の作業課題として残された会則、実施細則などの規定改正を行います。学会に名称変更した1996年度総会以降、一部修正したり、関係内規を加えたりしてきたので、全体のバランスを再調整する必要があります。第二に「養護教諭教育」の理念にそった学術的な活動の推進を図ります。「学術集会における一般発表の演題区分」の再検討とともに、養護に関する学問体系の提示を目指します。第三に、養護教諭の実践と養成と研修をつなぐ養護教諭教育プログラムにそった学会活動を推進します。学術集会での企画、プレコングレスの内容、学会誌やハーモニー

の特集に系統性をもたせ、計画的な活動の実施に努めます。第四に、「養護教諭の倫理綱領」を広め、養護実践基準の内容も含めて周知を図ります。これら以外にも、更なる発展を目指して取り組むべき事項があると思いますが、今期理事会の使命は次世代につなぐための諸整備と礎づくりであると考えています。

これらの実施を担う理事組織は、選挙によって選出された理事8名（いずれも大学教員）のうちの7名が再任ですので、理事長の推薦による理事は新任3名や現職養護教諭3名を含む計6名（関東ブロックの今富会員・松永会員、中部ブロックの加藤会員・塚原会員・圓岡会員、近畿ブロックの平井会員）を理事会で承認していただきました。前期より1名増員し、常任理事の担当業務を支える検討の場として、学術委員会、編集委員会、学会活動委員会、総務WGを位置づけました。これらの組織図は学会HPに掲載しています。

2018年度学会事業について

昨年10月の総会で承認された2018年度事業計画は、①第26回学術集会（兵庫県）の開催、②学術集会におけるプレングレスの開催、③研究助成金研究の選定と助成、④投稿奨励研究の選定、⑤学会誌第22巻第1号と第2号の発刊、⑥機関誌ハーモニー第76号から第78号の発行、⑦「養護教諭の倫理綱領」第13条の養護実践基準の検討、⑧「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集〈第三版〉」の発行作業、⑨日本養護教諭関係団体連絡会の取り組みの推進と養護教諭の資質能力に関する諸課題の改善、⑩広報活動及び他機関との情報交換の10項目です。

加えて、第Ⅶ期の総括では、①養護教諭の実践と養成と研修をつなぐ養護教諭教育プログラムの活動（例えば、学術集会での企画、プレングレスの内容、学会誌やハーモニーの特集など）の系統的で計画的な実施、②会則等の規定改正、③日本養護教諭関係団体連絡会による養成カリキュラム調査の推進、④養護教諭の倫理綱領の周知、⑤養護教諭教育の理念を支える学術的な枠組み（例えば、一般発表の演題区分から学問の構造へ発展など）の検討、⑥教員養成における学校保健の必修化、⑦チーム学校実現への参加などの課題を整理しました。

これらのうち、2018年度は「養護教諭の倫理綱領」の周知、「養護実践基準」の提案にむけた検討、「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集〈第三版〉」の発行、会則等の規程改正、学会HPの充実に取り組みます。すでに、用語の解説集〈第三版〉の発行準備では「養護教諭の倫理綱領」、「チーム学校」、「保健教育」を新たに加

えた検討を学会活動委員会を中心に進めています。

学術集会における「一般発表の演題区分」の見直し（学会員の研究内容・発表内容との関連性の分析など）、日本養護教諭関係団体連絡会による「養成カリキュラム調査」への協力（養護に関する専門科目の見直し、教員養成における学校保健の必修化など）、会員確保にむけた新企画の実施などについては、2018年度を含めた複数年で取り組む予定です。会員の皆様におかれましては、今後ともご支援とご協力の程をお願い申し上げます。

第Ⅷ期理事会 新理事挨拶

（五十音順）

「学会を身近なものに」

今富久美子（神奈川県立上矢部高等学校）

学校現場では養護教諭の本質を研鑽する機会は意外に少なく、「自分は学校の中の何者か？」と悩んでいた時に私は学会に出会いました。以来、学会の活動は私の道標となりました。このたび現場の経験しかない私が理事を仰せつかり正直戸惑いを感じておりますが、学会を身近に感じ、共に学ぶ現職の方が一人でも増えるよう努めてまいります。よろしくお願い致します。

「総務担当常任理事として」

大川 尚子（関西福祉科学大学）

前期は学会機関紙ハーモニーを担当させていただいておりました。今期は総務担当常任理事を務めさせていただきます。会員の皆様のご意見を聞きながら学会の運営がスムーズに進むよう尽力していきたいと思っております。今後ともご協力ご支援のほどよろしくお願い致します。

「学会発展のための明瞭な会計処理」

加藤 晃子（学校法人滝学園滝中学校滝高等学校）

前期も理事を務めさせていただきました。現職の視点を学会に反映させるという思いには程遠く、私立学校養護教諭の私としては、日々学ばせていただくことばかりでした。今期は総務の会計担当として明瞭、明確な会計処理に努め、微力ながら学会の発展に力を尽くしていきたいと思っております。

「養護を問いながら」

上村 弘子（岡山大学大学院）

今年度より理事として学会活動を担当させていただきます。これまでの活動の歩みを学ばせていただきながら、より充実した活動となりますよう努めてまいりたいと思っております。学会活動を通して、自分自身の「養護」を問い直していきたいとも思っております。会員の皆様の声や思いを反映できるよう尽力致します。どうぞよろしくお願い致します。

「学問構築につながる活動を」

河田 史宝 (金沢大学)

学術担当理事として二期目を担当させていただきます。昨年度は金沢大学において第25回学術集会を開催させていただきました。その経験を活かした学術集会の支援と発表演題区分の検討等、養護教諭の学問構築につながる活動に尽力していきたいと考えています。学術集会の発表演題区分の検討は、養護教諭の学問領域の検討にもつながりますので、質問紙調査にご協力くださいますようお願い致します。

「学会のさらなる発展のために」

古賀由紀子 (九州看護福祉大学)

VII期は総務を担当していました。VIII期も引き続き総務を担当させていただきますので、これまでの経験を活かし円滑な学会運営に尽力し、本会のさらなる発展に寄与したいと思います。今後ともご協力ご支援の程よろしくお願い致します。

「学会活動常任理事として」

小林 央美 (弘前大学)

前期は三木とみ子学会活動常任理事のもと、学会活動担当理事として「養護教諭の資質能力向上検討ワーキング」やプレコンgressを担当してきました。今期は、学会活動常任理事を務めることになりました。前期からの継続事案としての「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集<第二版>」の改訂をはじめ、学術集会時のプレコンgressの企画運営等を行ってまいります。学会員の皆様のご意見やお知恵に助けをいただきながら、学会のさらなる発展を目指して尽力したいと思っております。よろしく申し上げます。

「教育職員としての養護教諭の学問確立にむけて」

鈴木 裕子 (国士舘大学文学部教育学科)

今期も引き続き常任理事として学術委員会を担当します。よろしくお願い致します。学術という観点からみると、養護教諭にかかわる研究は教育学、心理学、看護学などさまざまな分野に分散されている現状があります。学際的と言えれば聞こえはいいのですが、教育職員として固有の立場にある養護教諭には独自の理論の構築が急がれます。課題はたくさんありますが、一步一步そこに近づくことができるよう活動を進めたいと思います。

「新たな気持ちで」

塚原加寿子 (新潟青陵大学)

昨年度まで、学術を担当させていただき、たくさんご支援をいただきました。ありがとうございました。

今期からは、学会活動を担当することになります。プレコンgressの企画や用語集の作成など、会員の皆

様のご協力のもと、学会活動の推進に力を尽くしたいと思っております。

「会員の相互交流を目指して」

平井 美幸 (大阪教育大学)

今期より、編集委員会担当の理事として機関紙ハーモニーを担当させていただくことになりました。これまで編集委員として培ってきた編集スキルを生かし、年3回発行のハーモニー編集に尽力してまいりたいと存じます。学会活動や養護教諭教育に関する情報発信はもちろん、会員相互の交流をもっていただけるような魅力ある機関紙となるよう努めてまいります。皆様のご支援をどうぞよろしくお願い致します。

「研究論文を通して実践を共有しましょう」

松永 恵 (茨城キリスト教大学)

6年前から編集委員会に加わり、昨年はワークショップを担当しました。本年度からは常任理事として学会誌の編集を担当します。6年間の出会いは何ものにも代え難いものでした。今後も論文を通して、皆様に出会えますことを楽しみにしております。

養護教諭は多くの分野から注目されています。実践を書き表し、様々な人と共有できますよう、共に進んでいきたいと思います。

「よりよい事務局運営を目指して」

圓岡 和子 (愛知県立三好高等学校)

第VII期に引き続きまして、今期も総務担当理事・事務局長として務めさせていただきます。よろしくようお願い致します。これまでも至らぬ点があり、皆様にご不便をおかけしたことがあったと思いますが、前回の反省を活かしまして、本学会の発展のため、学会員の皆様のため、養護教諭のために務めていきたいと思っております。

「身近に捉えられる学会活動をめざして」

三木とみ子 (女子栄養大学)

思い起こせば、私は本学会の理事として12年間余経過しました。この間の理事長及び学会活動委員会担当の理事の経験を活かし、会員のニーズに近い理事活動に努めたいと思います。学会活動委員会の主な役割は、学会の現代的なニーズへの対応、学術集会時のプレコンgress企画運営とともに「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集」を見直し、第三版を発刊する等です。「用語」は、養護教諭の「教育職として、専門職として」独自の言葉で関係者が共通用語として活用できます。学会員が日常実践や研究発表等の機会に役に立つような作業に取り組みたいと思います。

第26回学術集会へのお誘い

2018年9月29日(土)～30日(日)

学会長 津島ひろ江

(関西福祉大学大学院看護学研究科)

先の中央教育審議会答申で養護教諭の専門性として、「養護教諭は学校保健活動推進の中核的役割や関係職員のコーディネーターの役割」が示され、さらに保健室は学校保健活動のセンター的役割を担うことが指摘され、そのための資質能力を育成することが求められています。このような専門性を発揮するためには、多職種との連携・協働する力やそのチームをコーディネートする能力が必要不可欠になってきています。そこで、日本養護教諭教育学会第26回学術集会では、メインテーマを「連携・協働して子どもの育ちを支える養護の探究」と致しました。学校現場において多職種との連携の中で、子どもの育ちを支えていく養護について探究していくことを目指しています。下記の要項のとおり、兵庫県赤穂市にある関西福祉大学で開催致します。

本学会では特に一般口演を増やしていきたいと兵庫県を中心とした近畿地区の実行委員が準備を進めています。演題登録・抄録作成の時期が迫っております。皆様のご協力とご参加を心より、お待ちしております。

1. 期 日 2018年9月29日(土)・9月30日(日)
2. 会 場 関西福祉大学
3. メインテーマ
「連携・協働して子どもの育ちを支える養護の探究」
4. プログラム
第1日目
 - ・プレコンGRES
 - ・学会長講演「包括的な連携時代に養護教諭に期待されるコーディネーション能力」
津島 ひろ江(関西福祉大学大学院看護学研究科 教授)
 - ・特別講演「これからの地域医療施策の展望」
佐々木 健(厚生労働省医政局地域医療計画課 課長)
 - ・シンポジウム「連携・協働して子どもの育ちを支える養護の探究」
コーディネーター：北口 和美(元大阪教育大学 教授)
森脇 裕美子(姫路獨協大学 准教授)
シンポジスト：養護教諭、管理職経験者、学校の看護師経験者、福祉機関所長第2日目
 - ・一般口演(口頭発表・ポスター発表)

- ・ランチョンセミナー
- ・研究助成金研究発表
- ・総 会
- ・教育講演「子どもの命を守る―学校事故判例から学ぶ―」一般公開・無料に致します。
石原 真弓(大江橋法律事務所 弁護士)

5. 申込期間：
演題登録：2018年5月1日(火)～6月30日(土)
抄録提出：2018年6月1日(火)～7月31日(土)
6. 参加費：会員5,000円(事前申し込みの場合4,500円)、会員外5,000円、抄録集のみ2,000円、学生2,000(社会人大学院生を除く)懇親会6,000円
7. 申込方法：大会HP <http://jayte26.jp>
8. 学会案内
詳細につきましては、日本養護教諭教育学会公式HPに随時掲載致します。また、上記の大会HPにも掲載しております。

<http://yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp/wp/>

9. 学会事務局：関西福祉大学 津島研究室
日本養護教諭教育学会 第26回学術集会
E-mail yogo2018@kusw.ac.jp
◎お問い合わせやご連絡はメールのみでお願い致します。

トピックス

文部科学省「平成29年度特別支援学校等の医療的ケアに関する調査結果について」

理事長 後藤ひとみ

本年3月29日に、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課から、毎年行われている特別支援教育に関する調査の最新結果が公表されました。データは、「特別支援教育体制整備状況調査」「通級による指導実施状況調査」「特別支援学校等の医療的ケアに関する調査」の3資料です。本稿では、平成24年より一定の研究を受けた教員等がたんの吸引等の医療的ケアが実施できるようになったこと、平成28年6月の児童福祉法の一部改正において「医療的ケア児」が法律上初めて定義付けられ、支援体制の整備が地方公共団体の努力義務とされて一層の支援が求められていることなどから、「特別支援学校等の医療的ケアに関する調査」の結果について簡単にご紹介します。

平成29年5月1日現在、全国の公立特別支援学校において日常的に医療的ケアが必要な幼児児童生徒は8,218名(全在籍者の6.0%)で年々増加しています。一人で複数の医療的ケアを必要とするケースがみられ、

配置されている看護師は1,807名(前年度1,665名)に増加しています。公立の小学校・中学校では、日常的に医療的ケアが必要な児童生徒は858名で、調査を開始した平成24年度とほぼ同水準ですが、配置されている看護師は553名(前年度420名)と増加傾向にあります。

このような状況をふまえて、昨年10月26日に文部科学省は「学校における医療的ケアの実施に関する検討会議」を設置し、平成31年3月末までを期間として、①学校における医療的ケアの実施体制の在り方、②学校において人工呼吸器の管理等の特定行為以外の医行為を実施する際の留意事項、③学校において実施できる医療的ケアの範囲の明確化、④校外学習・宿泊学習など学校施設以外の場で医療的ケアを実施する際の基本的考え方の整理、⑤看護師が学校において医療的ケアに対応するための研修機会の充実について検討しています。調査結果の詳細や検討会議の協議内容は文部科学省HP(教育の特別支援教育で検索)をご覧ください。

災害について考える⑦

「災害 なにをどう伝えるか」

塚原加寿子(新潟青陵大学)

2011年3月18日、東日本大震災の被災地である仙台市の中学校に派遣された。子どもの気持ち、先生方の気持ち、学校のことがよく分かる養護教諭を派遣してほしいという要請によるものである。

日中は、環境衛生活動や避難された方々の健康管理を行った。夜は、薬や必要物品をもらいに来る方の対応をした。心のケアの前にするべきことがたくさんあった。二日目の夜、薬の出納管理を終えた後、ライフラインが全て止まっている学校の家庭科室で、先生方の話を聞いた。真っ暗な中、だるまストーブを囲んで、先生方がぼつぼつと話してくれた。卒業式の準備をしているとき、急に激しい揺れを感じたこと。津波から避難してきたお年寄りを、中学生が背負って上の階に避難させたこと。中学生が制服や体操着をお年寄りや小さな子に貸して、自分たちは暗幕やカーテンをはずして包まっていたこと。外は雪が降っていたこと。ご自身にも安否の分からないご家族がいるということ。その夜、家庭科室の寝袋の中で、「自分には何ができるのか」考えた。眠れなかった。

新潟県も近年、2度大きな地震を経験した。私の勤務校は震源から離れており、大きな被害はなかったが、それでも、揺れるたびに子ども達は不安がっていた。

災害を想定し、養護教諭は「何ができるのか」「何をすべきなのか」を養成段階から学んでおく必要があ

ると思う。

本学は看護学部で養護教諭養成を行っている。災害時や災害後の支援については、災害看護や公衆衛生看護の授業で学んでいる。また、心のケアについては、精神看護や健康相談活動の授業で学んでいる。

それらをふまえて、養護概説では、東日本大震災の記録(「教職員がつづる東日本大震災～学校で何があったのか 語りたい、残したい、伝えたいこと～」「東日本大震災 宮城・岩手・福島为学校～その被災と対応の報告～」「2011.3.11 明日へ つなぐ とき いのち ころ 東日本大震災にかかわる養護教諭の実践報告」)を資料とし、災害時の養護教諭の役割について考えさせる授業を展開している。さらに、リスクマネジメントの視点から、学校保健の授業では、NHKスペシャル「釜石の“奇跡”～いのちを守る特別授業～」を教材として、なぜ、子ども達が避難できたか考える授業を行っている。

これらの授業を通して、学生は、安全教育の意義や災害時の支援者の役割について学んでいるが、時数が限られていること、科目を横断していることから、どこかで学びを統合し、養護教諭の役割についてじっくり考える時間が必要であると思っている。

何を、どこで、どのように教えたらいいのか。毎年試行錯誤しながら授業をしているが、答えは見つからない。ただ、ひとつ、支援する自分の健康と安全にも気をつけてほしいことだけは毎年伝えている。

『私の実践と研究』リレーレポート⑳

養護教諭として育つ道すじ

友定 保博(宇部フロンティア大学人間健康学部)

現在、教育公務員特例法の改正に伴い、各県・市の教育委員会で教員育成指標の策定・実施が進み、それに基づく研修計画も見直されています。養成教育や現職教育にも影響する養護教諭の育成指標はどのようなものであるか、また、それぞれのステージにおいてどのような研修内容・方法が有効であるかは、本学会としても早急に検討が必要な課題だと思います。

表題は『保健室と養護教諭～その存在と役割』(教育科学研究会・藤田 和也 編 国土社 2008年)に寄せた拙稿につけたものです。内容は「教師のライフコースと成長」(山崎 準二,1998)に学び、自己形成の視点から実践を報告している熟練養護教諭6名の育ちを具体的に紹介しながら、年代の異なる現職養護教諭3名の報告と絡ませ、育ちの道すじを考察したものです。

従来教師教育実践は学生・教師の外側から理論・

技術を提供することで発達を図ろうとしたのに対し、ライフコース研究では「語り手：学生・教師」が内に抱える様々な思いを引き出し、聞き取りながら、その「語られたもの」一つ一つを個人的歴史的な文脈に位置づけ、意味付与し、解釈することがリサーチャーである「聞き手：研究者」に求められます。そのことを通して、「語り手」自身が自分に気づき、次なる方向を見だし、選択を促していくことにつながります。

私は大学院時代に東京で出会った若手研究者や養護教諭の先生方に学ぶ中で、「養護教諭の実践に埋もれている原則や方法を抽出し、一般化する仕事をサポートする」という言葉を胸に、1974年4月に山口大学教育学部に「学校保健」担当教員として赴任しました。山口県には養護教諭の内地研修制度（学校保健・6か月間）があり、小・中・高校3名を受け入れ、山口大学退職までに100名余の現職養護教諭と出会い、研修を行ってきました。最初の1か月間くらいは、これまでの自分の実践を振り返り語ってもらいました。実践の目的は何？ それらを通して子どもにどんな力をつけたいの？ 牛や馬の健康管理と人間（子ども）の健康管理は同じなの？ 質問攻めで困惑させたが、私にとっては〈成長ホルモン〉でした。

松田信子さん（1984）も同様な経験を語っています。「先生方から受けた指摘の多くは、すぐ明日から役立つものではなく、教育観や発達観、保健観や身体観といったものの見方や考え方、発想、視点といったこと」で、自分の実践の方途を示すことの学びの大切さを認識されています。期間の長い内地研修に比べると、通常の教員研修には、以下のような傾向があります。（西稜司, 2002）

- ・「研修」の中心に講演など受動的性格の学習をすえたもの
- ・「研修」の内容・方法が技術的対応主義の傾向が強いもの
- ・「研修」の主体である個々の教師の特性には配慮しないもの

養護教諭の現職研修も養成教育も、その外側から理論・技術を提供することによって成長の引き上げをはかるのではない。語り手自身は、研究のための単なる情報提供者ではなく、自分がいる文脈に気づき、さらには自分の成長方向を発見し、選択していくことができる学習・研修を工夫することが大切です。これは「語り手と聞き手が集う」本学会への期待でもあります。

2019年度「研究助成金研究」の申請募集

学術担当常任理事 鈴木 裕子

本学会事業のひとつに、会員の特色ある研究に対して一件10万円を助成する研究助成金制度があります。このたび、来年度の助成を希望する研究を募集します。

この制度は養護教諭教育（養護教諭の資質や力量の形成及び向上に寄与する活動）に関する研究の発展を目的としており、申請のあった研究の中から年間2件以内を選定します。助成を受けた研究は、研究内容をハーモニーでご紹介いただくほか、研究成果を学術集会にて発表し、助成期間終了後1年以内をめどに日本養護教諭教育学会誌に投稿していただきます。選定に関する内規等は学会誌第21巻第2号巻末や本学会ホームページをご参照ください。

申請できる人は共同研究者を含め会員に限ります。希望者は学会ホームページから申請書をダウンロードして研究計画等を記入し、下記の学術担当常任理事までメール添付で送信してください。養護教諭教育の発展につながるユニークな研究を期待しております。積極的にご応募ください！

◎2019年度助成の申請期限：2018年9月10日（月）

<申請先>

〒154-8515 東京都世田谷区世田谷4-28-1

国立館大学文学部 鈴木 裕子

（学術担当常任理事）

E-mail suzukiyu@kokushikan.ac.jp

投稿奨励研究のご案内

毎年、秋の学術集会で研究発表された演題の中から推薦により2件以内を選定し、学会誌への投稿を奨励する「投稿奨励研究」の制度も設けています。選定された研究は、特典として査読費用7,000円を免除し、学会誌掲載時には投稿奨励研究であることが明記されます。

今年の第26回学術集会においても座長等からの推薦をお願いする予定です。こちらは特に現職養護教諭による研究の推進をめざした制度ですので、養護教諭の皆様のご積極的なご発表を期待しております。本制度へのご協力をどうぞよろしくお願い致します。

「学会誌第22巻第2号」投稿募集

編集委員会委員長 松永 恵

いつもご投稿くださりましてありがとうございます。投稿者の皆様は現在、査読への回答、修正論文の作成に努められていることとしますので、コメントを丁寧に読み、修正についてご検討ください。なお、

理解しにくいコメントにつきましては、遠慮せずに下記編集委員会事務局にご相談ください。

さて、投稿の締め切りは年2回（9月末と3月末）です。学会誌の巻末にある投稿規程、投稿原稿執筆要領、論文投稿のしかた、投稿時のチェックリスト等を熟読し、手続きにそってご準備ください。

論文に求められる条件はたくさんあります。論文は①目的②方法③結果④考察の間に矛盾がないことが求められます。本学会では「論文の書き方教えます」制度があります。ホームページをご覧ください。

<編集委員会事務局>

〒310-8512 水戸市文京2丁目1番1号

茨城大学教育学部教育保健教室

斉藤ふくみ

TEL & FAX 029-228-8398

E-mail fukumi.saito.naru@vc.ibaraki.ac.jp

編集委員の紹介

今期も学会誌第1号と第2号の発行をそれぞれ担う2つの小委員会を組織し、新たな委員の委嘱も行いました。*は理事です。

編集委員長

松永 恵（茨城キリスト教大学）*

編集委員（五十音順）

青柳 千春（高崎健康福祉大学）

飯嶋 美里（常磐大学高等学校）

今野 洋子（北翔大学）

加納 亜紀（就実大学）

鎌田 尚子（女子栄養大学・名誉教授）

斉藤ふくみ（茨城大学）

田村真由子（大阪市立堀川小学校）

津島 愛子（岡山大学大学院）

留目 宏美（上越教育大学大学院）

照井 紗彩（札幌市立星置東小学校）

中川 優子（藤沢市立鶴沼中学校）

中西 美貴（札幌市立篠路小学校）

平井 美幸（大阪教育大学）*

山内 愛（岡山大学大学院）

山崎 隆恵（北海道教育大学）

2017年度理事会報告（要旨）

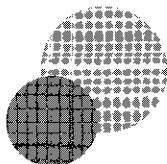
総務担当理事 古賀由紀子

2017年度第2回理事会議事録（概要）

1. 日 時 2017年7月15日（土）10：30～
2. 場 所 名古屋国際センター5階 和室
3. 出席者 後藤、加藤、河田、古賀、小林、斉藤、鈴木、塚原、圓岡、三木、宮本
（欠席者：大川、森）
4. 議 事
 - 1) 2016年度第4回議事録（案）、2017年度第1回議事録（案）
原案通り、承認した。
 - 2) 2017年度の活動経過報告
各常任理事より4月以降の活動経過が報告され、理事長より日本養護教諭関係団体連絡会の取組が報告された。
 - 3) 2017年度総会にむけて
議案、総会の役割分担等について確認し、2018年度予算案からは、編集委員会の収支を本会計に入れることを承認した。
 - 4) プレコンGRESについて
テーマを「教育改革の中で、改めて、養護教諭のこれからを考える」に決定し、内容等の検討を行った。
 - 5) 養護実践基準について
担当理事より検討経過が報告された。
 - 6) 「用語の解説集（第2版）」の見直しについて
改訂方針等の計画を立てる作業メンバーについて検討した。
 - 7) 第25回学術集会の進捗状況について
 - 8) その他、第26回学術集会について

2017年度第3回理事会議事録（概要）

1. 日 時 2017年10月6日（金）15：00～18：00
2. 場 所 金沢大学 自然科学棟本館1階 102講義室
3. 出席者 後藤、大川、加藤、河田、古賀、小林、斉藤、鈴木、塚原、圓岡、三木、宮本、津島監事、中下選挙管理委員会委員長
（欠席：森、稲垣幹事）
4. 議 事
 - 1) 2017年度第2回理事会議事録（案）について
原案通り、承認した。
 - 2) 第Ⅷ期理事選挙結果について
中下選挙管理委員会委員長より、投票率43.4%であり、各地区の選出理事は、北海道・東北ブロック：小林央美（弘前大学）、関東ブロック：鈴木裕子（国上館大学）・三木とみ子（女子栄養大学）、



中部ブロック：河田史宝（金沢大学）・後藤ひとみ（愛知教育大学）、近畿ブロック：大川尚子（関西福祉科学大学）、中国・四国ブロック：上村弘子（岡山大学大学院）、九州ブロック：古賀由紀子（九州看護福祉大学）であることが報告された。

- 3) 2016年度会計監査報告
- 4) 2017年度総会について
資料および運営について確認した。
- 5) プレコンGRESの運営について
- 6) 養護実践基準の中間報告について
- 7) WSの運営について
- 8) 第25回学術集会での学会事務局（本部）の設置等について
- 9) 2017年度活動経過報告
各担当理事及び委員会より活動経過が報告され、理事長より日本養護教諭関係団体連絡会の活動経過について報告された。
- 10) その他
津島次期学会長より、第26回学術集会の進捗状況について報告された。

2017年度 第4回理事会議事録（概要）

1. 日 時 2018年1月8日（月・祝）9：30～13：00
2. 場 所 東京田町 キャンパスイノベーションセンター6階ラウンジ
3. 出席者 後藤、大川、河田、古賀、小林、斉藤、鈴木、塚原、三木、宮本、森（欠席：加藤、圓岡）
4. 議 事

- 1) 第3回議事録（案）について
原案通り、承認した。
- 2) 第25回学術集会（金沢）の総括
①2017年度総会議事録の確認
②第25回学術集会の総括と次期学術集会への申し送り事項
総会運営・学会事務局体制、プレコンGRES、養護実践基準の中間報告、WSについて、全体の運営について振り返り、これまでの申し送り事項への加筆修正を行った。
- 3) 養護実践基準についての検討
学術集会での中間報告を踏まえて次の作業に進めていくこととした。
- 4) 2017年度活動経過報告
各担当理事及び委員会から活動経過が報告され、理事長より日本養護教諭関係団体連絡会の活動について報告された。
- 5) 次期学術集会の進捗状況
担当理事より資料に基づき報告された。

一般発表の「演題区分」についての意見募集

学術担当常任理事 鈴木 裕子

本会では、養護実践の根拠となる学問体系の確立を目指して、第22回学術集会（2012年）から一般発表における「演題区分」を提示してきました。現在、近年の学術集会で一般演題（口演・ポスター）を発表された会員の皆様を対象に、この区分についてのアンケートを実施しております。併せて、すべての会員の皆様からも演題区分に関するご意見を募集します。6月末日までに、学会事務局にE-mailまたはFAXでアンケートの返送及びご意見をお願い致します。皆様の忌憚のないご意見をお待ちしております。

事務局より

事務局 圓岡 和子

新年度になり、勤務先等が変わった方は、E-mailもしくはFAXにて学会事務局までお知らせください。ハーモニー等の発送にヤマト運輸のDM便を利用していますので移転先には転送されません。必ず変更届を提出してください。

また、周りの方で養護教諭教育（養護教諭の資質や力量の形成及び向上に寄与する活動）に興味のある方がいらっしゃいましたら、是非、本会へのご入会をお勧めください。

何かお気づきの点がありましたら、学会事務局までお知らせください。今後ともご理解とご協力をお願い致します。

<学会事務局>

TEL & FAX 0566-26-2491

E-mail JAYTEjimu@yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp

編集後記

5月末日現在、早くも沖縄・九州地方や四国地方の梅雨入りが発表されています。会員の皆様にハーモニーをお届けられる頃は、全国的な梅雨入りが見込まれます。到来する盛夏に備え心身の健康を整える時期として、紫陽花を愛でる余裕をもちたいですね。

さて、今号の「災害について考える⑦」では、災害現場の支援活動をふまえた養成教育の在り方のご提言をいただきました。「私の実践と研究リレー・レポート②③」では、「語り手と聞き手が集う」という本学会への期待に言及していただきました。今後も会員の皆様の相互交流を図りながら、養護教諭教育プログラムに沿い、創意工夫ある特別企画をお届けしていきたいと思っております。会員の皆様からのハーモニーへのご意見、ご感想も学会事務局へお寄せください。

次号のハーモニー第77号は、学術集会の開催に合わせて、8月末発行の予定です。（平井美幸）